

達第百八號

長崎三菱造船所ニ於テ製造ノ呂號二等巡洋艦ヲ矢矧ト命名セラル

明治四十四年十月三日

海軍大臣 男 爵 齋 藤 實

達第百九號

軍艦河内外四隻ニ左ノ通信號符字ヲ點付ス

明治四十四年十月三日

海軍大臣 男 爵 齋 藤 實

通信號符字

艦名

G Q H M

河 内

G Q H N

攝 津

G Q H P

筑 摩

G Q H B

矢 矧

G Q H S

平 戸

九十五

海 軍

0829

達第百十號

艦隊職員勤務令中左ノ通改正ス

明治四十四年十月十一日

海軍大臣 男爵齋藤 實

第十五條 司令長官ハ海軍信號書、艦隊運動程式等ニ變更追加ノ必要ヲ認メタルトキハ其ノ案ヲ具シ速ニ海軍軍令部長ニ提出スヘシ

正誤

明治四十三年達第六十四號別紙第二十六號書式中「成績何人中ノ何番」ヲ脱セリ

海軍省 副官

九十六

海軍

0830

達第百十一號

明治三十七年達第百六號艦船造修試験検査規則中左ノ通改正ス

明治四十四年十月十二日

海軍大臣 男 齋藤 實

第十條 内外國私立製造所ニ於テ製造ノ艦艇竣工シタルトキハ該艦艇長ハ海軍艦政本部長ノ指定セル職員立會ノ上製造所長ヨリ之ヲ受領シ指定軍港ニ回航スヘシ

第十一條 内國私立製造所ニ於テ製造ノ艦艇軍港ニ回航シタルトキハ當該鎮守府司令長官ハ海軍工廠長ヲシテ兵装其ノ他未済工事ヲ施行セシメ工事完了シタルトキハ直ニ其ノ旨海軍大臣ニ報告スヘシ

第十四條 内國私立製造所ニ於テ製造シタル艦艇ノ要目簿及ヒ圖面等ハ海軍艦政本部長ヨリ工事施行ノ海軍工廠長ニ送付シ工廠長之ヲ艦艇長又ハ司令ニ交付スヘシ其ノ艦艇他ノ鎮守府在籍ナルトキハ海軍艦政本部長ハ尙本籍鎮守府ニ屬スル海軍工廠長ニ其ノ要目簿及圖面等ヲ送付スヘシ

九十七

海軍

前項ノ艦艇工事完了セサルモノナルトキハ海軍艦政本部長ハ其ノ工事ノ程度ニ應シタル要目簿及圖面等ヲ工事施行ノ海軍工廠長ニ送付ス海軍工廠長ハ之ヲ完了シタル後艦艇長又ハ司令ニ交付シ尙ホ本籍鎮守府ニ屬スル海軍工廠長ニ其ノ要目簿及圖面等ヲ送付スヘシ

外國ニ於テ製造ヲ完了シタル艦艇ノ要目簿及圖面等ハ當該造船監督官ヨリ艦艇長ニ交付シ尙海軍艦政本部長ヨリ其ノ艦艇ノ本籍鎮守府ニ屬スル海軍工廠長ニ其ノ要目簿ヲ送付スヘシ

第三十三條 内國私立製造所ニ於テ製造ノ雜役船竣工シタルトキハ海軍工廠長ハ製造所長ヨリ之ヲ受領シ未済工事アルトキハ之ヲ完了シ第三十二條ニ依リ授受及報告ヲ爲スヘシ

第三十四條 削除

0831

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp

明治四十五年
達第百十三號
廢止

達第百十二號

第二、第三豫備艦艇ニハ必要ニ應シ明治四十三年十一月達第百四十九號定期及小演習用
消耗兵器年額表ノ範圍内ニ於テ消耗兵器ヲ供給スルニトテ得

明治四十四年十月十九日

海軍大臣 男爵齋藤 實

達第百十三號

明治四十二年達第百十三號ヲ廢ス

附

明治四十四年十月十九日

海軍大臣 男爵齋藤 實

九十八

海軍

0832

達第百十四號

艦艇類別等級別表中驅逐艦ノ欄内「海風」ヲ次ニ「山風」ヲ加フ

明治四十四年十月二十一日

海軍大臣 男爵 齋藤

實

九十九

海軍

0833

大正五年達第
百二十九号ノ次
本ノ次

改正

0834

達第百十五號

艦内號令詞別冊ノ達定ム

別冊ハ之ヲ要スル向ニ海軍教育本部ヲシテ配附セシム

明治四十四年十月三十日

海軍大臣 男爵 齋藤

實

達第百十六號

明治二十四年十月二十九號ヲ廢ス

海

明治四十四年十月三十日

海軍大臣 男爵 齋藤

實

參照

明治二十四年達第百二十九號ハ海軍運用號令詞制定ノ件ナリ

百
海
軍

改正

昭和十二年達
第六十三号
依
本条改正

達第百十七號

海軍工務規則左ノ通定ム

明治四十四年十月三十日

海軍大臣 男爵齋藤 實

海軍工務規則

第一章 總則

第一條 本規則ハ海軍工作廳ニ於ケル工務ニ關スルコトヲ規定ス

第二條 本規則ニ於テ海軍工作廳ト稱スルハ海軍工廠、海軍造兵廠、海軍下濶火藥製造所、要港部修理工場、旅順海軍工作部及海軍艦政本部製圖工場ヲ謂フ

第三條 海軍工作廳ニ於テハ左記事項ニ對シ適當ナル設備若ハ方法ヲ定メ所屬長官ヲ經テ海軍大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ

- 一、機械取扱上生スル危險ヲ豫防スルコト
- 二、健康ヲ保全スルコト

百一 海軍

三、風紀ヲ維持スルコト

四、公益ヲ害セサルコト

五、天災其ノ他非常ノ場合ニ對スルコト

第四條 海軍工廠ニ左ノ工場ヲ置ク

造船部工場

造機部工場

造兵部工場(横須賀海軍工廠、佐世保海軍工廠、舞鶴海軍工廠ニ限ル)

砲煩部工場(吳海軍工廠ニ限ル)

水雷部工場(全 上)

製鋼部工場(全 上)

第五條 海軍工作廳ニ於ケル工場ノ小別、名稱及其ノ箇數ハ廳長之ヲ定メ所屬長官ヲ經テ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ同一工場ヲ他部ト共通シテ使用スル場合モ亦同シ

第六條 海軍工作廳ニ於テハ職工ニ關スル諸規則其ノ他心得ヲ見易キ場所ニ揭示スヘシ

0835

第七條 海軍工作應ニ於テハ常ニ左記圖面及諸表ヲ備置クヘシ

一、建築物位置圖

二、砲熷水雷發射試驗場、艦渠、船臺、艦船引揚臺位置圖

三、鐵道線路其ノ他家屋外ニ在ル機械ノ配置圖

四、艦艇速力試驗標柱ノ位置、標柱間ノ距離並試驗場ノ水深ヲ明記シタル圖

五、艦材圍場圖

六、建築物目錄(第一號書式)

七、艦渠船臺明細表(第二號甲乙書式)

八、機械配置圖及機械目錄(第三號書式)

第八條 海軍工作應ニ屬スル建築物及機械ニハ總テ公稱番號ヲ附シ圖面及目錄ニ記載スヘシ但シ機械ハ各工場ノ所屬毎ニ區別シテ番號ヲ附スヘシ

建築物ニハ其ノ名稱及公稱番號ヲ記シタル標札ヲ掲ケ機械ニハ白色ノ塗料又ハ見分ケ易キ方法ヲ以テ其ノ公稱番號及成ルヘク其ノ能力ヲ記載スヘシ

百二
海軍

第九條 海軍工作應ニ於テ機械ヲ購入、製造、改造若ハ廢却セントスルトキハ入費概算書ヲ添付シ所屬長官ヲ經テ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ購入又ハ製造ノ場合ハ入費概算書ノ外第二十三號書式ニ依ル機械明細書、又艦渠用昇船ニ付テハ尙計畫圖面及製造方法書ヲ添附スヘシ

第十條 海軍工作應ニ於テ材料物品及機械ヲ直接外國ニ於テ購買スルノ必要アルトキハ其ノ品名數量期限事由等ヲ詳記シ且仕様書ヲ添附シテ海軍艦政本部長ニ請求スヘシ海軍艦政本部長ハ之ヲ調査シ造船造兵監督官ヲシテ之ヲ處理セシム

前項物品外國ヨリ到着シタルトキハ當該廳長ハ精密ナル検査ノ上其ノ狀況ヲ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第二章 工事

第十一條 海軍工作應ニ於テハ工事施行手續及工事費整理手續ヲ定メ之ニ據リ工事及整理ヲ行フヘシ

第十二條 海軍工作應ニ於テ工事ヲ行フトキハ材料費及工費ニ區別シタル工事費計算書

ヲ作り毎工事ノ豫算及決算ヲ明ニスヘシ

第十三條 海軍工作廳ニ於テ餘力アルトキハ海軍部内各廳工事ノ依託ヲ受クルコトヲ得
第十四條 海軍工作廳ニ於テ餘力アルトキハ海軍部外ヨリ工事ノ依託ヲ受タルコトヲ得
但シ該工事ハ民間ニ於テ施行シ難キ理由アルモノ又ハ海難救助其ノ他止ムヲ得サル理
由アルモノニシテ所屬長官ノ認可ヲ受ケタルモノ又ハ特合アルモノニ限ル

第十五條 艦船ノ受託工事ニシテ入渠スルトキハ別表第一號ニ依リ總積噸數ニ應シ入渠
料ヲ徵收スヘシ此場合ニ於テハ船渠使用ノ爲ニ要スル工費材料費ヲ徵收セス

第十六條 受託工事ノ爲諸機械ヲ使用スルトキハ其ノ使用ノ爲ニ要スル工費材料費ヲ徵
收スルノ外別表第二號ニ依リ使用料ヲ徵收スヘシ但シ海軍部内及他官廳ノ依託工事ニ
對シテハ之ヲ徵收セサルコトヲ得

第三章 職工

第十七條 海軍工作廳ニ於テ使役スル職工ヲ分ツテ左ノ三種トス

一、定期職工

百三

海軍

二、通常職工

三、見習職工

第十八條 定期職工ハ海軍定期職工條例ニ依リ服業スル者トス

第十九條 通常職工ハ年齡滿十六年以上滿五十五年迄ノ者ニシテ見習職工トシテ工業ヲ
習得シタル者又ハ職工タル普通ノ技能ヲ有シ新ニ採用セラレタル者トス但シ特別ノ技
能アル者ハ年齡滿十六年以下十四年以上又ハ滿五十五年以上ノ者ト雖之ヲ通常職工ト
爲スコトヲ得

第二十條 見習職工ハ年齡滿十四年以上滿二十五年迄ノ者ニシテ工業習得ノ目的ヲ以テ
入業シ見習期間及成業後見習期間ニ均シキ期間ハ解備ヲ出願セサル旨誓約シテ服業ス
ル者トス

第二十一條 左ニ掲クル者ハ職工タルコトヲ得ス

一、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二、身體検査ニ合格セサル者

0837

第二十二條 職工ノ名稱ヲ左ノ如ク定ム

圖工	機工	仕上工	製鋼工	鑄工
鍛工	銅工	鉛工	彈工	携鐵工
鋸打工	鐵壞隙工	鐵木工	鐵工	穿孔工
鍍工	造船工	木工	建具工	模型工
木挽工	製鐵工	製鍋工	藥莖工	組立工
水雷工	電氣工	火工	製藥工	塗工
縫工	填隙工	綱具工	煉瓦工	潜水工
運轉工	管工	検査工	分拆工	刷版工
記録工	雜工			

第二十三條 職工ノ階級ヲ左ノ如ク分ツ

- 一、工手
- 二、組長

百四
海軍

三、伍長

四、並職工

第二十四條 職工ハ一定ノ手帳ヲ所有スヘシ

手帳ハ在業中勤務應ニ於テ保管シ入退業賃錢ノ増減、賞罰、其ノ他身上ニ關スル事項ヲ記載シ又辭令ニ代用スルモノトス

第二十五條 職工解僱ニ際シ技能及勤怠成績ノ證明ヲ請フ者アルトキハ適當ト認ムル者ニ限リ之ヲ手帳ニ記入シ與フルモノトス

第二十六條 職工ノ公休日ハ大祭祝日、日曜日、靖國神社祭日及毎年十二月二十九日ヨリ一月五日迄トス

第二十七條 職工ハ前條ノ公休日及服業定時間外ト雖命令アルトキハ何時ニテモ出業スヘキモノトス

第二十八條 職工左ノ諸號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ解僱スヘシ但シ定期職工ハ定期職工條例ノ定ムル所ニ依ル

0838

- 一、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二、共同罷工ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サシメタルトキ但シ強迫ヲ受ケタル事實アルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 三、場内ノ秩序ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シ若ハ之ヲ爲サシメ又ハ其ノ處アリテ事體稍重キトキ
- 四、官ノ秘密ヲ漏洩シタルトキ
- 五、懲戒ノ處分ヲ受クルコト一箇月ニ三回若ハ二箇月ニ四回ニ及フトキ
- 六、正當ノ理由ナクシテ引續キ三週間以上出業セサルトキ
- 七、正當ノ理由ナクシテ公休日若ハ定時間外出業ノ命令ニ應セサルコト引續キ三回以上ニ及フトキ
- 八、公務ニ原因セサル疾病其ノ他ノ事故ニ依リ引續キ十週間以上出業セサルトキ但シ徵兵召喚ニ應シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 九、年齢五十五年ニ達シタルトキ但シ特別ノ技能アル者ハ此ノ限ニ在ラス

百五

海軍

- 十、不健康ニシテ工場ノ衛生ニ害アリト認メタルトキ
- 十一、技能上達ノ見込ナシト認メタルトキ
- 十二、品行不良又ハ懶惰ニシテ改悛ノ見込ナシト認メタルトキ
- 第二十九條 前條ニ依リ職工ヲ解僱シタルトキハ各鎮守府、要港部及艦政本部ニ其ノ事故族籍姓名年齢ヲ通知スヘシ鎮守府、要港部及艦政本部ハ部下各處ニ之ヲ告示シ各處ハ再ヒ之ヲ職工其ノ他ニ採用セサルモノトス但シ前條第五號乃至第八號ニ依リ解僱セラレタル者六箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第三十條 第二十八條諸號ニ該當セサル者ト雖工事上其ノ他官ノ都合ニ依リ職工ノ減員ヲ要スル場合ニハ之ヲ解僱スルコトルヘシ
- 第三十一條 女工ヲ使役セントスル場合ハ所屬長官ヲ經テ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第三十二條 女工ハ危險又ハ衛生上有害ナル事業ニ就カシムルコトヲ得ズ前項ノ場合ヲ除クノ外女工ノ使役ニ關シテハ本規則ニ準據スヘシ

第四章 勤務時間

0839

第三十三條 高等官及官廳詰判任官以下ニ在リテハ一日ノ執務時間ヲ八時間トス工場詰判任官以下ニ在リテハ之ヲ十時間トス但シ製圖工場及分柙工場詰判任室以下ニ在リテハ之ヲ九時間トス

第三十四條 職工一日ノ服業時間ハ之ヲ十時間トス但シ製圖工場及分柙工場職工並女工ニ在リテハ之ヲ九時間トス

前項時間中三十分間ヲ食事時間トス

第三十五條 女工及十六歳未満ノ職工ハ夜業ニ從事セシムルコトヲ得ス但シ非常急遽ノ場合ニ於テ特ニ必要アルトキハ所屬長官ノ認可ヲ經テ之ニ從事セシムルコトヲ得

第三十六條 執務及服業ノ始終時間ハ一箇年中晝夜ノ長短ト地方ノ情況トニ依リ第三十三條及第三十四條ノ制限ヲ變更セサル限ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得其ノ時限並高等官以下ノ出場退場職工ノ起業終業及食事時限ハ晝業夜業ニ區分シ所屬長官之ヲ定メ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ高等官以下ノ退場時限ハ職工ノ晝業停止時限ト同一トスヘシ

百六
海軍

第三十七條 止ムヲ得サル事由ニ依リ増服業又ハ公休日ニ服業セシムル必要アルトキハ所屬長官ノ認可ヲ經テ之ヲ施行スルコトヲ得

第五章 職工賃錢

第三十八條 職工ノ賃錢ハ定時間ノ服業ヲ一工トシ工數ニ依リ之ヲ給ス但シ臨時終業ヲ命シタルトキハ其ノ終業迄服業ヲ一工トシ賃錢ヲ給ス

第三十九條 職工起業時限迄ニ出業セス又ハ終業時限前ニ退業スルトキハ左ノ各號ニ依ルノ外賃錢ヲ給セス

一、起業時限迄ニ出業シ定時間ノ半數以上服業シタル後退業シタルトキハ賃錢半額ヲ給ス

二、起業時限ニ後ルルコト十五分以内ニ出業シ終業時限迄服業シタルトキハ賃錢十分ノ七ヲ給ス

三、起業時限ニ後ルルコト十五分以内ニ出業シ定時間ノ半數以上服業シタル後退業スルトキハ賃錢十分ノ二ヲ給ス

職工業務上傷病ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ退業スルトキハ前項ノ區分ニ依ラス當日賃錢全額ヲ給ス

第四十條 職工ノ賃錢等級ハ別表第三號ノ通之ヲ定ム但シ其ノ平均額ハ毎年度別ニ定ムル所ニ依ルヘシ

第四十一條 職工ヲ定時間外ニ服業セシメタルトキハ一時間(増時間三十分)以上二時間(計算)ニ計スル毎ニ賃錢十分ノ一以內ヲ給ス

終業時限三時間後ヨリ起業時限迄ノ間ニ服業セシメ又ハ特種ノ專業ニ服セシメタルトキハ尙別表第四號ニ依リ加給ヲ給スルコトヲ得

終業時限後起業時限迄當直トシテ鑑籍又ハ工場ニ服業セシメタルトキハ一時間毎ニ賃錢二十分ノ一ヲ給ス

第四十二條 職工ニ臨時出業ヲ命ジ服業セシメタルトキノ給與ハ前條ノ例ニ依ル前項ノ職工終業時限前ニ退業スルトキハ服業時間ニ對スル賃錢ノ半額ヲ給ス

第四十三條 職工定時間外若ハ公休日ニ於ケル天災其ノ他非常ノ場合ニ出場シ防禦ニ從

百七 海軍

事スルトキハ賃錢及加給ヲ給セズ一時間毎ニ賃錢十分ノ一若ハ十錢以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第四十四條 夜業ヲ本務トスル職工ニハ定時間ノ服業ニ對シ賃錢ノ三割以內ヲ加給ス

第四十五條 職工業務上傷病ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業ヲ要スルトキハ其ノ間(公休日ヲ除ク)賃錢半額ヲ給ス

職工業務旅行中自己ノ不養生ニ由ラスシテ疾病ニ罹リ滞在スルトキハ賃錢半額ヲ給ス

第四十六條 職工傳染病隔離法施行ノ爲ニ服業ヲ禁セラレ又ハ官ノ都合ニ依リ休業ヲ命セラレタルトキハ其ノ間(公休日ヲ除ク)賃錢半額ヲ給ス

第四十七條 職工賃錢ノ増給ハ毎年四回以內之ヲ行フコトヲ得但シ技能相當ニ上達シ且精勵ノ者ニ非ラサレハ増給セサルモノトス

前項ノ場合ニ於テ特別ノ事情アル者ハ超級ノ増給ヲ爲スコトヲ得但シ三級以上超級ノ増給ヲ爲シタルトキハ其ノ理由ヲ具シ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第四十八條 初テ職工ヲ傭入ル、ニ當リ假ニ賃錢ノ等級ヲ定メタルトキハ爾後一回ニ限

リ前條ノ規定ニ拘ラス相當ノ増給ヲ爲スコトヲ得

第四十九條 職工ノ賃錢ハ毎月二十日ヲ以テ締切毎月末日迄ニ之ヲ給ス但シ土地ノ情況ニ依リ毎月數回ニ締切毎回之ヲ給スルコトヲ得又死亡解僱若ハ轉僱ノトキハ其ノ都度之ヲ給ス

第五十條 職工賃錢ノ増給減給ハ其ノ命令ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ計算ス

職工ニシテ文官ニ任用セラントル場合ニ於テハ命令ノ日迄雇員若ハ傭人ニ採用セラレタル場合ニ於テハ命令ノ日ノ前日迄其ノ賃錢ヲ計算シテ之ヲ支給ス

第六章 時間請負法

第五十一條 工事ノ竣工時間ヲ豫定シ豫定ノ職工ヲシテ之ヲ請負ハシムルヲ有利ト認ムルモノハ之ヲ時間請負工事トシ本章定ムル所ニ依リ加給ヲ給スルコトヲ得

第五十二條 時間請負工事竣工ノ後豫定職工ノ實就時間ニシテ豫定時間ヨリ短キトキハ左ノ算式ニ依リ加給ヲ給ス但シ該實就時間ニシテ豫定時間ヲ超ユルトキハ賃錢ノミヲ給ス

$$(E-6) \frac{t}{T} \times \frac{W}{10} = \text{加給額}$$

トノ豫定時間
Tノ實就時間
tノ時間請負工事ノ竣工後ノ時間
Wノ賃錢ノ率

二人以上ニテ請負タル場合ニハ其ノ加給金ハ請負工事ヲ始メタル日ニ於ケル各自ノ賃錢ニ各實就時數ヲ乘シタル金額ニ按分シテ之ヲ給ス

第五十三條 夜業本務ノ者ニ在リテハ前條加給ノ外別ニ本規則第四十四條ノ加給ヲ給ス

第五十四條 時間請負工事ハ定時服業者ニ服業定時間中之ヲ課スルヲ例トス若シ工事ノ必要上止ムヲ得ス殘業セシムル場合ニハ別表第四號第一ノ加給中増働歩合ノミハ別ニ給シ第五十二條加給算式ハ之ヲ變更セス但シ増働歩合ハ現賃錢ニ依ルモノトス

第五十五條 器具機械ノ整理材料ノ運搬調革ノ掛外シ其ノ他従ニ工事ヲ離レタルカ若ハ無斷ニテ休業シタル時間ハ總テ請負時間内トス但シ止ムヲ得サル事故ノ爲休業ノ許可ヲ受ケタル場合若ハ官ノ都合ニ依リ工事ノ中止ヲ命シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 實就時數ヲ調査スルニ當リ端時間ノ計算ハ每十五分ヲ以テ區分シ十五分未満ハ其ノ半以上ト未滿トニ依リ或ハ之ヲ十五分ニ算シ或ハ之ヲ切捨ルモノトス

第五十七條 工事不良ニシテ検査ニ合格セザルトキハ加給ヲ給セス但シ殘餘ノ時間内ニ

之ヲ仕直シ尙殘時間アルトキハ之ニ對スル加給ヲ給ス

第五十八條 數個ノ同形品中一部不良品ヲ生シタルトキハ殘餘ノ良品ニ對シ豫定時間ヲ按分シテ加給ヲ給ス

第七章 工費請負法

第五十九條 工事ノ竣工日數及豫定單價ヲ定メ豫定ノ職工ヲシテ之ヲ請負ハシムルヲ有利ト認ムルモノハ之ヲ工費請負工事トシテ本章定ムル所ニ依リ加給ヲ給スルコトヲ得

第六十條 工費請負工事ニシテ請負日數内ニ竣工シタルトキハ左ノ算式ニ依リ加給ヲ給ス

$$(N \times H - W) \times (\frac{1}{2}) = \text{加給額}$$

N: 請負日數
H: 一日ノ労働時間
W: 請負日數内ニ於テハ定時労働者ニ依リテ請負工事に始メタル日ニ於ケル各自ノ賃銀

二人以上ニテ請負タル場合ニハ其ノ加給ハ請負工事ヲ始メタル日ニ於ケル各自ノ賃銀ニ各賃就時數ヲ乘シタル金額ニ按分シテ之ヲ給ス

第六十一條 工費請負工事ハ定時服業者ニ服業定時間中之ヲ課スルヲ例トス但シ工事ノ必要上止ムヲ得サル場合ニ於テハ定時間外ニ繼續セシムルコトヲ得ルト雖豫定單價ヲ

百九

海軍

變更スルコトヲ得ス

第六十二條 工費請負工事ニ於ケル日數ハ服業定時間ヲ以テ一日トス定時間内外ノ端時間ニ對シテハ一時間毎二十分ノ一日ヲ加算ス但シ三十分以上ハ一時間ニ算入ス

第六十三條 第五十五條ノ規程ハ之ヲ工費請負工事ニ適用ス

第六十四條 請負日數内ニ工事ヲ竣工シ能ハサルトキハ相當ノ延期ヲ與フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ延期日數一日毎ニ加給十分ノ一ヲ控除ス但シ許可ヲ受ケ休業シタルトキ若ハ工事ノ都合ニ依リ就業人員ニ異動ヲ生シタル爲遲延ヲ來シタル場合ハ之ヲ控除スルノ限ニ在ラス

第六十五條 工事不良ニシテ検査ニ合格セザルトキハ加給ヲ給セス但シ請負日數内ニ工事ヲ仕直シ良品トナリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十六條 多數ノ請負品中一部不良品ヲ生シタルトキハ良品ノ個所ヲ請負個數ト定メ加給ヲ給ス

第八章 賞與加給

0843

第六十七條 職工ニシテ工事上特種ノ功勞アル者ニ對シテハ別ニ定ムル所ニ依リ加給ヲ給スルコトヲ得

第六十八條 賞與加給ヲ給セントスルトキハ其ノ金額及事由ヲ具シ所屬長官ノ認可ヲ受クヘシ

第九章 職工旅費

第六十九條 職工ヲ旅行セシムル場合ハ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ給ス

一、内國(朝鮮樺太ヲ除ク)ニ在リテハ海軍内國旅費規則ニ準據シ第七表表面内ハ同表九等ノ定額表面外ハ第五表九等ノ定額ヲ給ス但シ別表第四號第八及第九ノ場合ニ於テハ旅費ヲ給スルノ限ニ在ラス

二、外國(清國ヲ除ク)ニ在リテハ海軍外國旅費規則ニ準據シ汽車料ハ客室三等ノ定額トシテ客舎料食卓料日當及支度料ハ七等ノ定額以内ニ於テ旅行ノ性質ニ應シ海軍大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

海軍内國旅費規則第七表ノ表面外ニ屬スル北海道ノ旅行ニ限リ第五表ノ定額ヲ以テ支

辨シ難シト認ムル場合ニ於テハ海軍大臣ノ認可ヲ受ケ増額スルコトヲ得

第七十條 甲應ヨリ乙應ニ轉僱スル職工ニハ移轉料トシテ十圓ヲ支給スルコトヲ得

第十章 懲 戒

第七十一條 職工ニシテ左ノ諸號ノ一ニ該當スル者アルトキハ廳長ハ其ノ情狀ニ依リ十日以内ノ出業ヲ停止若ハ賃錢ヲ減給スルコトヲ得但シ賃錢半額以上ヲ減スルコトヲ得ス

二個以上ノ犯行ニ觸ル、者ハ各別ニ處分シ一所爲二個以上ノ犯行ニ該ルトキハ一ノ重キニ從テ處分スヘシ

一 官物ヲ毀損或ハ亡失シ又ハ製作ヲ誤リタル者

二 火氣ノ取扱ヲ疎漏ニシ又ハ狼ニ定所外ニ焚火シタル者

三 各自擔當ノ鎖鑰ヲ怠リ又ハ使用ノ器具ヲ散亂シテ退場シタル者

四 言語所爲詐僞ニ涉ル者

五 服順ノ道ヲ失ヒタル者

- 六 暴行脅迫ヲ爲シタル者
- 七 犯行者アルヲ知テ之ヲ隠庇シタル者
- 八 他人ヲ陥ル爲無實ノ申告ヲ爲シタル者
- 九 賭博ニ類スル行爲アリタル者
- 十 利ヲ得ルヲ目的トシ廠内ニ於テ金錢ヲ貸與シ若ハ物品ヲ賣渡ス者
- 十一 職札ノ取扱ヲ疎漏ニシ或ハ置キ忘レ或ハ紛失セシメ又ハ其ノ掛外シテ他人ニ依
類シ若ハ委託ヲ受ケ其ノ掛外シテ爲シタル者
- 十二 罵詈侮慢喧嘩争論又ハ高聲ニ雑話シ若ハ放歌シタル者
- 十三 酩酊シテ出業シ又ハ出業中飲酒シタル者
- 十四 定所外ニ放尿シ又ハ汚物ヲ投棄シタル者
- 十五 燈ニ建燈ニ觸レ或ハ瓦礫ヲ投シタル者
- 十六 無届ニテ欠勤シ又ハ事故ニ託シ出業セスシテ他ノ傭ニ應シ若ハ稼業ヲ營ミタル
者

- 十七 正當ノ理由ナクシテ休日若ハ定時間外出遊歩命令ニ應セザル者
- 十八 就業時間中睡眠シ又ハ懈怠ニシテ服業ニ熱心ナラザル者
- 十九 公務若ハ取締ニ有害ナル所爲アリタル者
- 二十 吸煙ヲ許サ、ル場所ニ於テ吸煙具ヲ携帯シ若ハ賦匿シ又ハ吸煙ヲ許セル工場ト
雖定メラシタル時間又ハ場所以外ニ於テ吸煙シタル者
- 二十一 官物ヲ濫用シ若ハ浪費シ又ハ擅ニ使用ノ器具ヲ變造若ハ製造シタル者
- 二十二 出業中私用品ヲ製造シ又ハ之ヲ依頼シ若ハ依頼ヲ紹介シタル者
- 二十三 掲示標札其ノ他諸報告榜標等ヲ毀損若ハ汚漬シタル者
- 二十四 柵塀牆壁其ノ他ノ物品ニ貼紙又ハ樂書シタル者
- 二十五 瓦斯電燈ノ火口及水管ノ水口ヲ開放シ置タル者
- 二十六 出業中許可ヲ得スシテ猥ニ退場シタル者
- 二十七 猥ニ他ノ工場若ハ禁止ノ場所ニ立入り又ハ自己ノ職業ヲ休止シ若ハ他人ノ職
業ヲ妨害シ又ハ諸方ヲ徘徊シタル者

二十八 就業時間中喫飯若ハ其ノ準備ヲ爲シタル者
 二十九 終業用當時限以前ニ終業ノ準備ヲ爲シタル者
 三十 塔垣柵塙等ヲ設置シタル者
 三十一 出業中異様ノ舉動ヲ爲シ又ハ濫ニ袒裼裸體トナリタル者
 三十二 猥ニ莫實員ヲ採取シ又ハ樹木花卉ヲ折リ又ハ魚鳥ヲ捕フル者
 三十三 就業時間中新聞雜誌ノ類ヲ閱覽スル者
 三十四 碁將棋双六骨牌等ノ遊具ヲ携帯シタル者
 三十五 出業中醜行ヲ爲ス者
 三十六 法則命令ヲ誹謗シ若ハ之ニ違背シタル者
 第七十二條 前條ニ據リ處分ヲ爲ストキハ本人ニ宣告ノ上其ノ宣告文ヲ五日間工場ニ掲
 示スヘシ
 宣告ノ爲ニスル呼出ニ應セサルトキハ缺席ノ儘ニテ之ヲ宣告シ前項ノ例ニ依ル
 第十一章 諸報告

第七十三條 各廳長ハ毎年三月末日現存スル第七條各號ノ圖面及目錄ヲ謄寫シ五月末日迄ニ海軍艦政本部長ニ提出スヘシ但シ建築物等ニシテ將來建設スヘキ計畫ノ確定シタルモノ並諸機械ニシテ將來据付クヘキ計畫ノ確定シタルモノハ之ヲ圖面及目錄ニ掲ケ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第七十四條 各廳長ハ各期日迄ニ左ノ月報ヲ海軍艦政本部長ニ提出スヘシ

報告	番式	提出期日
艦艇工事月頭報告	第四號	毎月一日
造兵月報	第五號	毎月五日
製鋼月報	第六號甲乙	毎月五日
甲鐵板製造月報	第七號	毎月五日
造船造機工事費現況月報	第八號	毎月末日
造兵依頼工事費月報	第九號	毎月末日
工費月報	第十號	毎月末日

職工配置月報

材料費及請負工事費月報

製造兵器落成月報

購買兵器月報

第七十五條 各廳長ハ翌年度六月末日迄ニ左ノ年報ヲ海軍艦政本部長ニ提出スヘシ

報 告

書 式

- 艦船製造費年報
- 艦船修理費年報
- 兵器修理及備裝費年報
- 受託造修費年報
- 海軍部内依頼工事費年報
- 附屬費年報
- 繰越兵器組替年報

第十一號	每月末日
第十二號	翌月十日
第十三號	翌月十五日
第十四號	翌月十五日
第十五號甲乙	
第十六號甲乙丙	
第十七號	
第十八號	
第十九號	
第二十號	
第二十一號甲乙	

百十三 海 軍

材料物品年報

資金所屬物品受拂年報

第二十二號甲乙
第二十三號

第七十六條 諸報告表中ノ工數ハ定時間内一人ノ服業ヲ一工數トシ定時間外ノ服業ハ一人一時間ヲ以テ十分ノ一工數トシテ計算シ工費ハ工數ニ依リタル賃錢及其ノ他ノ加給

並工事費ニ屬スル旅費ヲ包含スルモノトス

第七十七條 第十四條ニ依リ工事ノ依託ヲ受ケタルトキハ各廳長ハ翌月十五日迄ニ其ノ

理由氏名種類及入費精算高(材料費工費ヲ區分シ工數當月ニ添ル)ヲ所屬長官ヲ經テ海軍艦政

本部長ニ報告スヘシ

附 則

第七十八條 朝鮮樺太及清國ニ派遣セラル、職工ノ給與ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七十九條 本規則施行細則ハ各廳長之ヲ定メ所屬長官ヲ經テ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘ

第八十條 本規則ハ明治四十五年一月一日ヨリ施行ス

明治三十七年三月達第六十二號海軍工廠工務規程、明治三十七年三月達第六十二號海軍

0847

職工規則、明治三十三年一月達第二號[㊟]職工人工夫給與規則、全達第四號[㊟]職工賃銀等級別表、
 明治三十六年一月達第三號[㊟]及明治三十八年四月官房第一三五九號ハ本規則施行ノ日ヨリ
 之ヲ廢止ス

別表第一號

艦船入渠料表

艦船ノ總噸	三百噸	三百噸余	四百噸	四百噸余	五百噸	五百噸余	六百噸	六百噸余	七百噸	七百噸余	八百噸	八百噸余	九百噸	九百噸余	千噸	千噸余	二千噸	二千噸余	毎噸
最初三日	五〇〇円	五二〇円	五四〇円	五六〇円	五八〇円	六一〇円	六四〇円	六七〇円	七〇〇円	七三〇円	七六〇円	七九〇円	八二〇円	八五〇円	八八〇円	九一〇円	九四〇円	九七〇円	毎噸
四日以下	五〇円	五二円	五四円	五六円	五八円	六一円	六四円	六七円	七〇円	七三円	七六円	七九円	八二円	八五円	八八円	九一円	九四円	九七円	毎噸
降一日分	五〇円	五二円	五四円	五六円	五八円	六一円	六四円	六七円	七〇円	七三円	七六円	七九円	八二円	八五円	八八円	九一円	九四円	九七円	毎噸

一、入渠料ハ日曜日公休日及風雨ノ日等官ノ都合ニ依リ入渠艦船ノ工事ヲ爲サ、ル日
 及出渠ノ日ハ之ヲ徵收セス、平日日曜日並公休日ト雖入渠艦船ニ於テ工事ヲ施行ス
 ルトキハ官ノ職工ヲ使用スルト否トニ拘ラス之ヲ徵收ス、船底乾燥ノ爲工事ヲ爲サ
 サル日及船底検査ノ爲艦船ノ都合ニ依リ工事ヲ見合ストキト雖亦之ヲ徵收ス

百十四 海軍

- 二、無届ニテ入渠期日ニ廻船入渠セサルトキハ當日入渠準備ノ爲要シタル費用ヲ徵收ス
- 三、艦船長等ノ要求ニ依リ船渠内ノ盤木若ハ其ノ位置ヲ變更スルトキ又ハ其他特ニ費
 用ヲ要スルトキハ入渠料ノ外之ニ關スル費用ヲ徵收ス
- 四、總積噸數不明ノ艦船ニ在リテハ左ノ式ニ依リ總積噸數ヲ算定ス

$$\text{總積噸數} = \frac{L \times B \times D}{100} \quad C$$
 - Lハ上甲板ニ於テ船首骨ノ内部ヨリ船尾ノ内部迄^(莖板アルトキハ其ノ内部ヨリ内部迄)ノ長さ
 - Bハ船肋ノ内縁ヨリ内縁迄^(莖板アルトキハ其ノ最大幅)ノ最大幅
 - Dハ船ノ中央部ニ於ケル上甲板梁ノ中央頂ヨリ船床ノ頂上迄^(莖板アルトキハ其ノ内部迄)ノ深サ
 - Cハ長、幅、深ノ尺度「メートル」ナルトキハ21.88「フイート」ナルトキハ0.92

別表第二號

諸機械使用料表

機 械 種 類	使 用 料
滾錘、燒鐵爐及起重器	一時間ニ付 貳圓

鎔鑄爐及亞鉛鍍器
 右ノ外諸機械並小爐
 成量「キログラム」ニ付 拾 錢
 一時間ニ付 拾 錢
 一時間未滿ノ離數ハ一時間ニ繰上ケ計算ス

別表第三號

職工賃錢等級表

等級	金額	等級	金額	等級	金額
特別一等	參圓	特別二等	貳圓七拾錢	特別三等	貳圓五拾錢
特別四等	貳圓參拾錢	特別五等	貳圓拾錢	特別六等	貳圓
特別七等	壹圓九拾錢	特別八等	壹圓八拾錢	特別九等	壹圓七拾錢
特別十等	壹圓六拾錢	特別十一等	壹圓五拾錢		
一等	壹圓四拾錢	二等	壹圓參拾錢	三等	壹圓貳拾錢
四等	壹圓拾錢	五等	壹圓	六等	九拾六錢
七等	九拾貳錢	八等	八拾八錢	九等	八拾四錢
十等	八拾錢	十一等	七拾六錢	十二等	七拾貳錢
十三等	七拾錢	十四等	六拾八錢	十五等	六拾六錢

百十五

海軍

備考 女工ノ最上額ハ十六等トス

十六等	六拾四錢	十七等	六拾貳錢	十八等	六拾錢
十九等	五拾八錢	二十等	五拾六錢	二十一等	五拾四錢
二十二等	五拾貳錢	二十三等	五拾錢	二十四等	四拾八錢
二十五等	四拾六錢	二十六等	四拾四錢	二十七等	四拾貳錢
二十八等	四拾錢	二十九等	參拾八錢	三十等	參拾六錢
三十一等	參拾四錢	三十二等	參拾貳錢	三十三等	參拾錢
三十四等	貳拾八錢	三十五等	貳拾六錢	三十六等	貳拾四錢
三十七等	貳拾貳錢	三十八等	貳拾錢	三十九等	貳拾八錢
四十等	拾六錢	四十一等	拾四錢	四十二等	拾貳錢

別表第四號

特種事業加給表

種類	區別	別
第一 終業時限三時間 外ヨリ起業時限迄 ノ服業	終業時限三時間後六時間迄及起業時限前二時間以内	日給十分ノ一以内
	終業時限六時間後及起業時限二時間以前	日給十分ノ一以内

每一時間加給額

第二 硝鹼製造又ハ之ニ 類似ノ服業	水底五尋未満	日給五十分ノ一以内
第三 潜水事業	水底五尋以上	六錢乃至十五錢
第四 潜水器ヲ用ヒサル 水中ノ事業	五月及十月、北海道ニ在リテハ六月及九月 十一月ヨリ四月迄、北海道ニ在リテハ十月ヨリ五月迄	八錢乃至二十錢
第五 屛及脚下水中ニ 入ルヘキ事業	五月及十月、北海道ニ在リテハ六月及九月 十一月ヨリ四月迄、北海道ニ在リテハ十月ヨリ五月迄	十二錢乃至三十錢
第六 病毒傳染ノ恐アル 場所ニ於ケル服業 天災其ノ他非常防 禦ノトキノ服業		一錢五厘乃至三錢
第七 艦船ニ重底及二重 底ノ如キ狹隘不健 康ナル場所ノ服業 艦船内圓修理ノ服 業		二錢乃至五錢
第八 艦上及艦船機突上 其ノ他之ニ準スヘ キ場所ノ服業	艦船機突内ノ事業 水雷艇機突内ノ事業	二錢五厘乃至五錢 四錢乃至六錢
第九 艦船ニ乗組ミ明治 四十二年途第六十 九號ノ區域外ニ出 航中ノ服業	運轉其ノ他事業 機關室内ニ非ラサル事業	一錢乃至二錢五厘 一錢乃至二錢五厘

一、第一、第二ニ於ケル端時間ハ三十分以上一時間ノ額ヲ給ス
二、第三ニ於ケル端時間ハ三十分毎ニ、第四ニ於ケル端時間ハ十分毎ニ一時間ノ割合
額ヲ給ス

百十六
海軍

0850

- 三、第五乃至第八ニ於ケル端時間ハ一時間未満ヲ計算セス
- 四、第八第九ニ於ケル服業二日以上ニ及フトキハ糧食給與ノ場合ヲ除クノ外出航ノ日ヨリ歸着ノ前日迄日數ニ應シ別ニ四十錢以内ノ加給ヲ給ス
- 五、船具工場ニ使役スル職工ニハ檣上及艦船煙突上其ノ他之ニ準スヘキ場所ノ服業ニ對シ第七ノ加給ヲ給セス
- 六、本表ニ掲クル事業ニシテ二種以上同時ニ服業スルトキハ第一第二ヲ除クノ外多額ノ一種ニ就キ加給ヲ給ス

百十七

海軍

0851

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

第一號告示 何年度報告 廳長 監考 主務部長
何應何部所屬諸建築物明細目錄 何年三月末日現在
目錄(造兵)突ニアツテ、破壊、水害、製續、各別ニ、造換、造修
會計部、各部ニ任部ケ調整スヘシ

公稱番號	名	稱	構造	材料	平面	二階	建築	竣工年月
					和尺	坪數		

分割撮影ターゲット

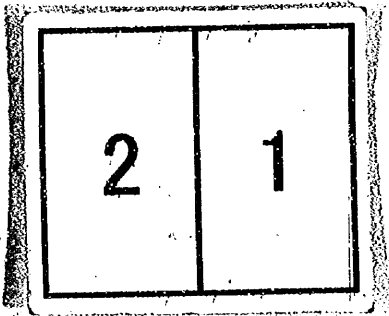
分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	何 庁船渠明細表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

Table with multiple columns for canal details including discharge, width, depth, and various measurements. Includes a grid for '何 廳船渠明細表' (Canal Details Table) with sub-columns for '第一號', '第二號', '第三號', '第四號' and '英尺'.

0853
0854

第二號乙書式

何年 何月 何日

何

總長 ㊦

主務部長 ㊦

何 應船臺明細表

何年三月末日現在

備考	備	維持費	船臺上ガントリノ製造費	水門製造費	船臺築造費	竣工年月日	起工年月日	リフト	船臺上ガントリノ種類及力量	有線	船臺ノ有無	水門ノ有無	傾度	船臺頭ノ方向	船臺面ニ於ケル幅	盤木ノ部分ニ於テ地盤ノ得ル最大重量	盤木ノ部分ニ於テ地盤ノ得ル最大重量	盤木ノ部分ニ於テ地盤ノ得ル最大重量	水中			水上			船ヘキ得			製造最大全長								
																			最大朔望滿潮	最小朔望滿潮	水門ヨリ	最大朔望滿潮	最小朔望滿潮	水門ヨリ	最大	大	輕									
																																第一號	英尺			
																																	第二號	英尺		
																																		第三號	英尺	
																																		第四號	英尺	
																																		第五號	英尺	

0855

第三號書式 何年度報告

何 廠 長 ⑩

主 務 部 長 ⑪
會 計 部 長 ⑫

何 應 何 工 場 機 械 目 録 何 年 三 月 末 日 現 在

公 稱 番 號	機 械 名 稱	能 力 及 製 造 廠 名	購 入 或 製 造 年 月	保 存 期 限	購 入 或 製 造 費	維 修 費	操 作 費	計	備 考
第一	ホリゾント エンジン								本工場起働機 ニシテ寶馬力 百二十
第二	ランカシヤ ホイラー								本工場起働機 寶馬力百二十 ニ對スルモノ
第三	トラペリング クレイン								重量十噸ヲ運 搬シ得
第四									重量二十噸ヲ 運搬シ得
第五	グアルチカル マシニング								長さ二メートル 幅二メートル 重五百ヲ鉋削 シ得
第六	ドリリング マシニング								直徑二十五ミ リ迄ノ孔ヲ穿 テ得
第七									直徑六十ミ リ迄ノ孔ヲ穿 テ得
第八	ホリゾント ボアリング								直徑一メー トル五百迄ヲ穿 テ得
合計									

備考 目錄ハ造兵ノ限リ砲、水雷及製鋼、造船、造機、會計部ノ四冊ニ仕別ケ調製スヘシ

0856

第四號書式

						艦艇名	艦艇工事項月頭報告 明治 年 月 日 艦名
						區分	
備	補 機 械	主 機 械	電 氣	水 雷	兵 砲 類	船 体 及 機 裝	
							起 工 年 月 日
							竣 工 豫 定 年 月 日
							新造特定修理重要工 事進捗程度百分比
							記 事

0857

明治 年 月 日
造兵月報

品名	符號	注文				A-(B+C)	X-Y	X-Y	定數	完成數	本月中完成數	備考
		注文	附文	前年	本年							
四十五口径 四一式十時砲	甲六號	二	六	一	四	五	三	二	一			
四十五口径 六時砲鐵鋼榴彈	四二兵製 一〇號	五〇〇	〇	一五三	五〇〇	三四八	三四八	〇	五〇		本年度内尙一、〇〇〇個ノ 注文ニ應スルコトヲ得 落成豫定期四十年 月	

備考 一、工事進行程度ハ本表附録トシテ別紙要領ニ依リ調製添付スルモノトス

二、注文品名、番號、員數ハ工事着手ノ有無ニ拘ラス總テ掲載スルコト

三、落成豫定期日ハ摘要欄ニ記入スルコト

明治 年 月 分		造兵月報附録		應		名	
品名	員數	注文番號	當月迄ノ 實施工程	施行中ノ 工事種類	記	容	
四十五口径十二時砲 第九號	一	四一兵製第一號	10/100			一號ヨリ八號迄八門ハ本年 七月領收試験済	
四十五口径四一式六時砲他 第十號	一	全	15/100	2c下 削りか			
十八時水中發射管 第二號	一	全	100/100			領收試験中	
直流發電機 第一號	一	陸補水三裝第一號	70/100				
直流發電機 第一號	一	基本補水鞍第六號	50/100				
電動送風機 第一號	一	整石水第五七號	70/100				

備考 本表ハ砲橋砲架、魚形水雷發射管、電動機、變壓機、配電盤、發電機等主要

兵器ノ製造工事進行程度ヲ知ルヲ目的トスルニ在ルカ故ニ品名欄ニ記入スル

番號ハ完成スル迄同一ナルヲ要ス又艦艇上ニ裝備シテ始メテ完成ニ至ルモノ

ハ當該應ニテ製作シ得ル迄「百」ト定ム

明治 年 月 製鋼月報 (甲)

應 名

熔鋼之部		品名	本月中熔鋼高	六月中熔鋼豫定高	記事
		砲身材料地金	四三〇	三〇〇	
		砲架材料地金	四六		
計					

鋼材精鍊之部

品名	本月中精鍊高	六月中精鍊豫定高	記事
精鋼材	五九二、八四九	五〇〇、〇〇〇	

鍛鍊之部

品名	本月中鍛鍊完成高	六月中完成豫定高	記事
砲身及附屬品材料	一二四、五一七	一五〇、〇〇〇	
砲架及附屬品材料	六九〇	一〇、〇〇〇	

合計

甲鐵製造之部

類別	甲鐵注	文	數	本月完成數	完成數	累計	完成數
河内上部裝甲帶飯	七吋	一六	一八四、二〇二	一四	二一八、〇〇七	一四	二一八、〇〇七
全中央部裝甲帶飯	全	一二	一四六、三〇四	四	四五、二八四	一二	一三二、四四八
合計							八八

明治 年 月 分製鋼月報 (乙)

應 名

砲身之部(砲架 彈丸 水雷空氣室 信管及火管等之部)		品名	注	文	數	本月完成數	完成數	累計	完成數
六吋砲	四三	砲架	長	砲架	定	重	量	量	量
六吋砲	四三	彈丸	長	彈丸	定	重	量	量	量
六吋砲	四三	水雷空氣室	長	水雷空氣室	定	重	量	量	量
六吋砲	四三	信管及火管等	長	信管及火管等	定	重	量	量	量
三吋砲	四三	砲架	長	砲架	定	重	量	量	量
三吋砲	四三	彈丸	長	彈丸	定	重	量	量	量
三吋砲	四三	水雷空氣室	長	水雷空氣室	定	重	量	量	量
三吋砲	四三	信管及火管等	長	信管及火管等	定	重	量	量	量
新式伊集院四寸砲	〇	砲架	長	砲架	定	重	量	量	量
新式伊集院四寸砲	〇	彈丸	長	彈丸	定	重	量	量	量
新式伊集院四寸砲	〇	水雷空氣室	長	水雷空氣室	定	重	量	量	量
新式伊集院四寸砲	〇	信管及火管等	長	信管及火管等	定	重	量	量	量
合計									

軍艦 甲鐵板製造月報
 明治 年 月 日 調

インゴット 番 號	甲鐵板番號	甲 鐵 板 取 付 位 置	甲鐵板重量 一平方呎 Lbs	鑄込月日	伸延月日	炭 煎 出 來 月 日	曲 り 方	最 終 曲 り 直 寸	出 來 重 量	キ ー ル 下 一 式 重 量	送 附 月 日

第七號書式

工廠長 ②

製鐵部長 ③

0860

造船(造機)部 何年何月分工事費現況月報

費目及細別	總豫算額	前年度迄 仕拂累計	本年度豫算額 (前年度ヨリ繰)	仕拂済額	支出未済額			仕拂合計	豫算残高	材料前金拂	備考
					部内仕拂	廠内他部へ 委託工事仕拂	廠外注文				
一 般 修 理 特定修理 (前年度ヨリ繰) 雜 船 製 造 雜 船 修 理 製 機 關 積 立 機 體 職 職 休 務 費 移 働 費 備 費 雜 費 請負工事費 (-100000) 〃 (420000) 〃 (0) 其 他 軍事費小計											一、本年度豫算額ニハ年度初頭ニ限リ備考欄へ前年度繰越額及本年度豫算ト各別ニ明記スヘシ 二、附屬費ハ各細別ノ支拂ニ併算シ其ノ費額ヲ備考欄ニ明記スヘシ 三、豫算額ノ増減及依託工事ノ豫算分割並増減ハ必ス備考欄ニ事項及金額ヲ明記スヘシ 四、總豫算額ハ製造側令造船費ヲ船體費機關費ニ分割シタル當時ノ金額ヲ掲記スヘシ
總計											

1080

0861

第八號書式

造船(造機)部工事費現況月報

何廳何部

1080

0861-2

第九號書式

造兵依頼工事費月報

應名

依頼廠名	艦政本部 注文番號	品名	工費	材料費	附屬費	廠外製造	合計	理由

0862

備考 本表ハ各工廠造兵廠相互間ノ造兵(造兵ニ關スル製鋼ヲ含ム)依頼工事ヲ受託廠ニ於テ調製シ毎月
末ニ報告スルモノトス

第十號書式

職 別	明治何年 工 費 月 報		明治何年何月何日		縣 名
	造 兵 部	造 船 部	造 機 部	合 計	
工 費					

備考 受託造修、造船道兵以外ノ經費ヲ以テスル部内依託工事費等經費ノ如何ニ係ハラス其ノ部ノ事業ニ因シ
タル工費(事業費)負擔旅費等ヲ通算ス
四月分ハ一日ヨリ二十日迄其ノ他ハ前月二十一日ヨリ毎月二十日迄締切ノモノ、三月分ハ末日迄ノモノ
トス
吳工廠ニ在リテハ造兵部ノ欄ヲ省キ砲兵部、水雷部、製鋼部ニ區分掲上フコト

0863

備考	等部計會官査檢					部機造							部船造							部別 又工場名 職區別 組 長 伍 長 平 職 工 計			
	小計	副官	工場庫	材料庫	檢査	小計	製鐵	鑄造	煉鐵	機械	發電	製鋼	工務係	小計	船具	船渠	造船	製圖	工務係				
																			見習工		雜工	記工	通工
工場名又ハ係名職區別ハ一例ヲ示シタルモノニ付各工場等ニ於テハ現在ノ儘ニ依リ記載スルコト 不參者ノ延人員ハ工業定日ト否トニ拘ラズ一ヶ月ヲ過シテ毎日ノ不參者ヲ總算計シ揚クルコト 自前月廿一日不參職工延人員 至本月廿一日不參職工延人員	總計					部鋼製							部兵造							部別 又工場名 職區別 組 長 伍 長 平 職 工 計			
	小計					小計							小計										
	何々					何々							何々										
	何々					何々							何々										
	何々					何々							何々										
	何々					何々							何々										
	何々					何々							何々										
	何々					何々							何々										
	何々					何々							何々										
	何々					何々							何々										

第十二號書式

明治何年 何月分		材料費及請負工事費月報				明治何年何月何日		廠名
區別	造兵部造船部造機部合計							
材料費								
請負工事費								

備考 材料費ハ受託造修、造船造兵以外ノ經費ヲ以テスル部内依託工事等經費ノ如何ニ係ラス其ノ部ノ事業ニ
關シタル材料費ヲ通算ス
吳工廠ニ在リテハ造兵部ノ欄ヲ省キ砲臺部、水雷部、製鋼部ニ區分掲上ノコト

0865

製造兵器落成月報
何年何月分

注番 文號	品名	稱呼	庫月 納日	員數			本月中完成數代價				摘要	
				注數 文	本中成 月完數	完全 成數	廠工費 外	製 造		計		
							工 費	材 料 費				

備考
 載ス本報告ハ各款砲彈ノ水雷各別ニ開製スルモノトス
 シテ依託工費ハ市申請費下屬分タル爲メ未記シ又何廠ヘ依託セシ旨備考ニ記
 入ス
 廠外工費ハ市申請費及他造兵器等ニ依託ノ工費ヲ記入ス而
 込數ヲ摘要ニ記入スルコト
 注文ノ全數庫納ノトキハ精丁ノ文字又注文ノ總數アル場合ハ翌月ニ於テ製造見

第十三號書式
 何
 局長
 會計課長
 主務部長

0866